

## 2024年の米国株式市場：規模、セクター、及びスタイルの視点から市場動向を分析する



**Sherifa Issifu**

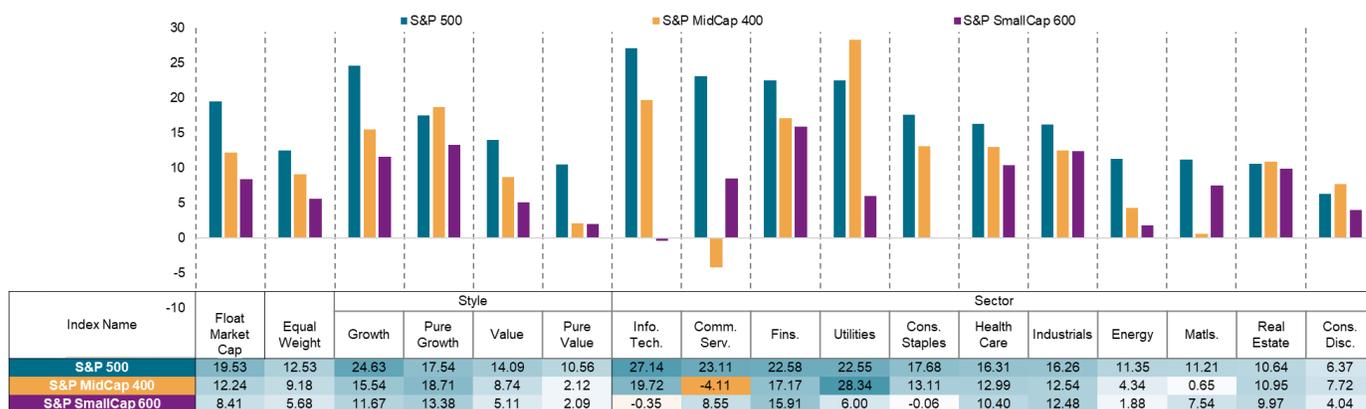
アソシエイト・ディレクター、米国株式  
S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス

この資料は、2024年11月6日に弊社ブログ Indexology® に掲載された文書の翻訳版です。英語版と日本語版の間に内容の相違がある場合は英語版をご参照下さい。

英語版：<https://www.indexologyblog.com/2024/11/06/under-the-hood-of-u-s-equities-perspectives-on-size-sectors-and-style/>

2024年のこれまでのところ、大型株、成長株、及びテクノロジー関連企業が米国株式市場のパフォーマンスを牽引してきました。人工知能（AI）の開発が進み、これらの企業の成長見通しが改善する中で、[S&P 500®上位 50 指数](#)、[S&P 500 情報技術指数](#)、[S&P 500 コミュニケーション・サービス指数](#)、及び [S&P 500 グロース指数](#) は 8 月末までの年初来で 20% 以上上昇しています。

図表 1：大型株、成長株、及びテクノロジー関連株が 2024 年の年初来のパフォーマンスを牽引



出所：S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス LLC。2024年8月30日現在のデータ。指数のパフォーマンスは米ドル建てのトータル・リターンに基づいています。過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。図表は説明目的のために提示されています。

しかし、年初来のパフォーマンスを詳細に分析すると、6月末以降において市場の牽引役が大きく変化したことが分かります。実際に、2024年下半期に入ると、AIの将来性に対する市場参加者の見方が変化する中で、半導体チップの生産能力やAIの実用化などをめぐる議論が活発化しました。また、短中期的な視点で、AIに対する期待が

経済全体の成長につながるのかどうかという点にも注目が集まりました。このことは、上半期に市場の牽引役となっていた大型株、成長株、及びテクノロジー関連株の下押し要因となりました。

一方、第3四半期には不動産などの内需関連セクターや、バリュー株及び小型株などが株式市場の牽引役となりました。[S&P 小型株 600®指数](#)は S&P 500 を約 6%アウトパフォーマンスし、[S&P 中型株 400®指数](#)及び [S&P 500 均等加重指数](#)は S&P 500 をそれぞれ 2%及び 3%アウトパフォーマンスしました。

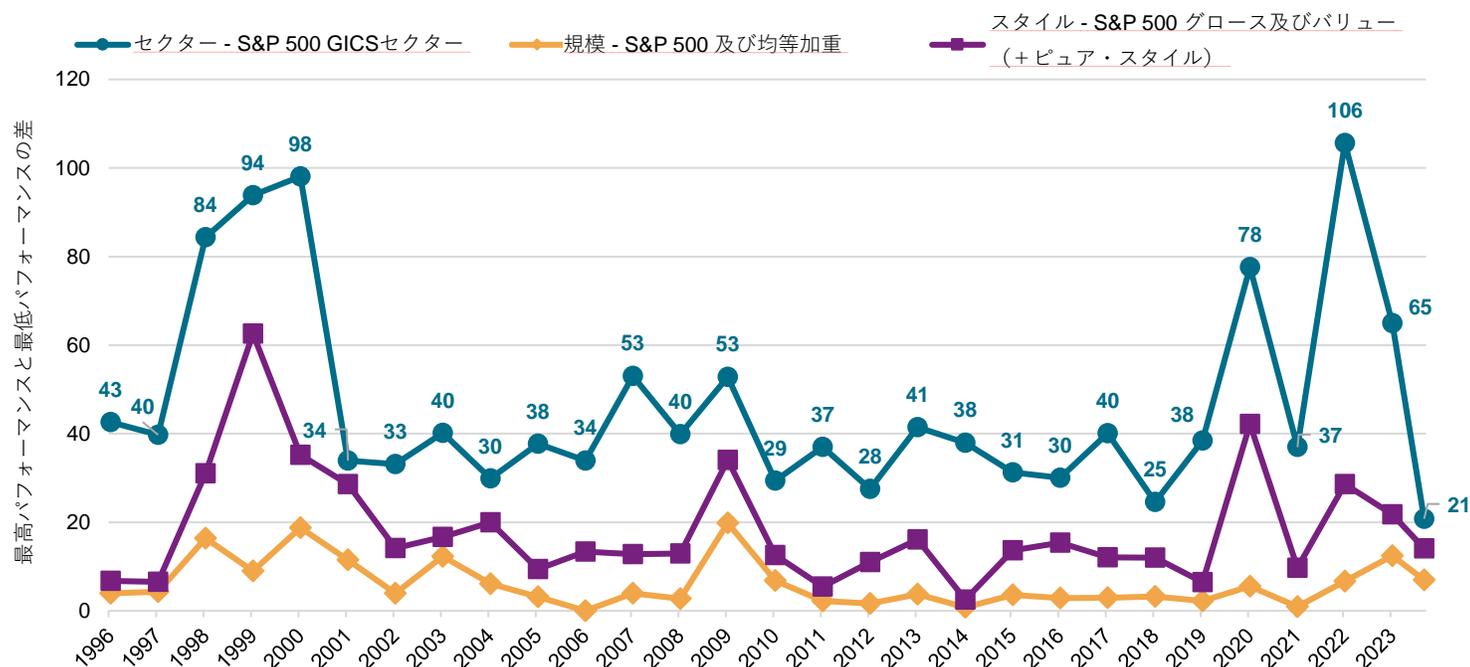
図表 2：2024 年第 3 四半期には主に米国の内需関連セクターがパフォーマンスを牽引

指数名	絶対リターン			S&P 500 との比較		
	2024 年 上半期	第 3 四半 期*	年初来	2024 年 上半期	第 3 四半 期*	年初来
S&P 500 不動産	-2.45	13.42	10.64	-17.74	9.75	-8.88
S&P 小型株 600	-0.72	9.20	8.41	-16.02	5.53	-11.12
S&P 500 資本財・サービス	7.75	7.90	16.26	-7.54	4.22	-3.26
S&P 500 バリュー	5.79	7.85	14.09	-9.50	4.17	-5.44
S&P 500 均等加重指数	5.08	7.09	12.53	-10.22	3.42	-7.00
S&P 中型株 400	6.17	5.72	12.24	-9.13	2.05	-7.29
<b>S&amp;P 500</b>	<b>15.29</b>	<b>3.67</b>	<b>19.53</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>
S&P 500 上位 50	21.94	1.82	24.16	6.65	-1.85	4.63
S&P 500 グロース	23.56	0.86	24.63	8.27	-2.81	5.10
S&P 500 上位 10 指数	28.86	-0.59	28.10	13.56	-4.26	8.57
S&P 500 情報技術	28.24	-0.86	27.14	12.95	-4.53	7.62
S&P 500 コミュニケーション・サービス	26.68	-2.82	23.11	11.39	-6.49	3.58

出所：S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス LLC。2024 年 8 月 30 日現在のデータ。\*「第 3 四半期」のデータは、2024 年 7 月 1 日から 8 月 30 日までのデータに基づいています。指数のパフォーマンスは米ドル建てのトータル・リターンに基づいています。過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。表は説明目的のために提示されています。

こうしたトレンドが継続するかどうかを判断することは困難ですが、過去の動向を見る限り、[米国の時価総額指数](#)、[セクター](#)、[及びスタイルなどのセグメントにおいて市場の牽引役が交代することは珍しいことではありません](#)。また、米国株式市場の各セグメントのパフォーマンスが上半期と下半期で異なることは、これらの各セグメントが S&P 500 と異なるパフォーマンスになる可能性があることを示唆しています。このことは、米国株式市場内の分散投資の機会を提供しています。

図表 3：「セクター間」の勝者と敗者のパフォーマンス格差は、「規模間」や「スタイル間」の勝者と敗者のパフォーマンス格差よりも大きくなる傾向がある



出所：S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス LLC。2024年8月30日現在のデータ。指数のパフォーマンスは米ドル建てのトータル・リターンに基づいています。過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。表は説明目的のために提示されています。図表は、米国株式の各セグメントのトータル・リターンに基づいて、各年の最高パフォーマンスと最低パフォーマンスの差を表しています。

ここ数年間の状況を見ると、セクター間、スタイル間、及び規模間のパフォーマンスのばらつきが拡大しており、過去と比較すると、セクター間のパフォーマンスのばらつきが最も拡大しています。2022年には、S&P 500を構成する各セクター間のパフォーマンスのばらつきが過去最大となりました。最高のパフォーマンスとなったセクター（エネルギー・セクターの86%）と、最低のパフォーマンスとなったセクター（コミュニケーション・サービス・セクターの-40%）の差は106%に達し、これまで最もパフォーマンス格差が大きかった2000年の98%を上回りました。市場参加者がアクティブ運用またはパッシブ運用のいずれを選択するかにかかわらず、セクター別の投資アプローチは依然として有効な投資ツールであると言えます<sup>1</sup>。

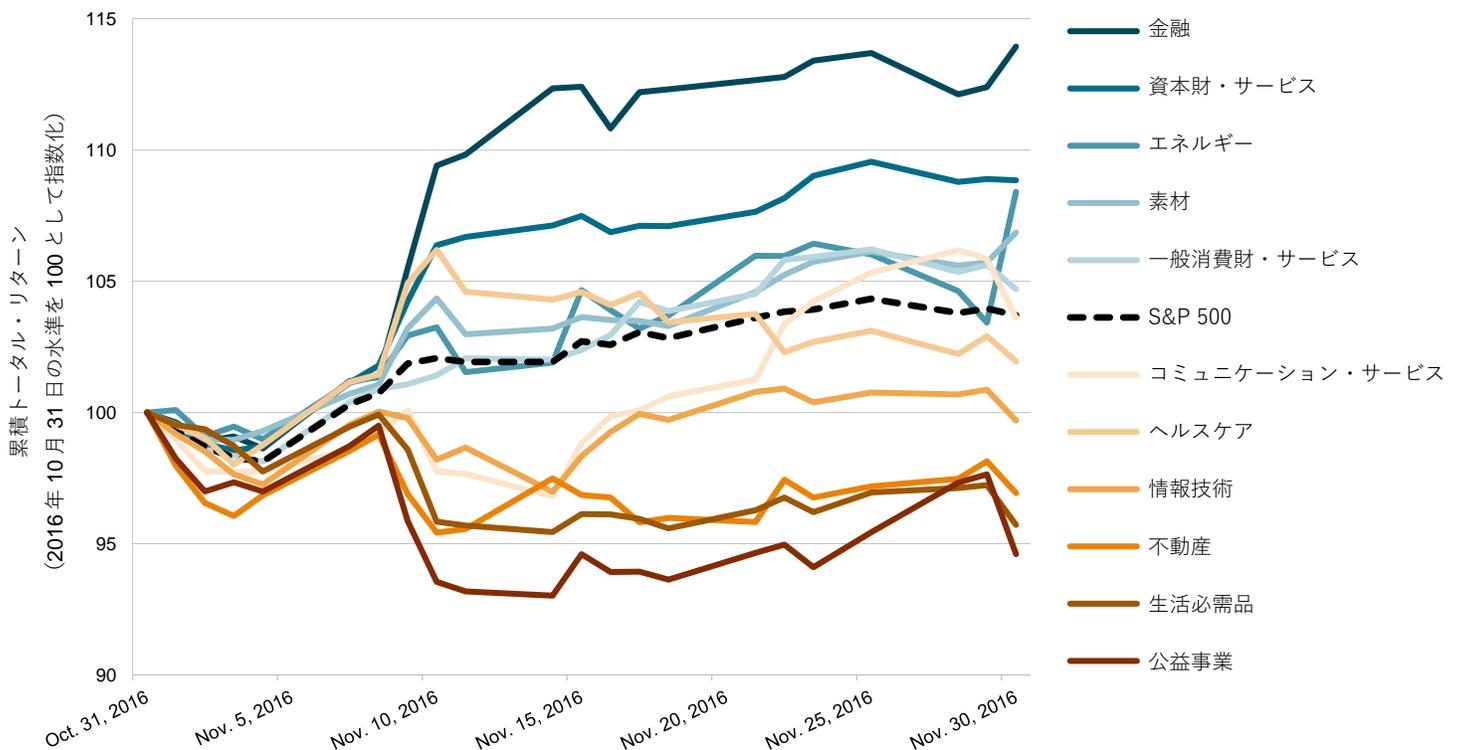
また、米国大統領選挙に伴ってセクター間のパフォーマンスのばらつきが拡大する傾向も見られます。大統領選挙が行われる11月は、他の月や選挙のない時期と比較して、セクター間のパフォーマンスのばらつきが大幅に拡大しています<sup>2</sup>。図表4は、ベンチマークのボラティリティが比較的低かったにもかかわらず、セクター・レベルではパフォーマンスのばらつきが大きかったことを示しています。2016年には、セクター効果がS&P 500における月

<sup>1</sup> Nelesen, Joseph 及び Edwards, Tim 著「[Natural Selection: Tactics and Strategy with Equity Sectors](#)」、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス、2020年7月。

<sup>2</sup> Ganti, Anu 及び Lazzara, Craig 著「[Sector Effects During Elections](#)」、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス、2020年9月

間のばらつきの40%以上を占めました。市場はその時点で、次期政権の政策が様々な市場セグメントに及ぼすと予想される影響を織り込んでいました。2024年の米国大統領選挙でも同様の傾向が見られるかどうか注目されます。過去の事例では、セクター効果が重要な役割を果たしている（セクター間のパフォーマンス格差が拡大している）ことから、セクター選択の重要性が増していると考えられます<sup>3</sup>。

図表 4：2016年の米国大統領選挙時におけるセクター間のパフォーマンスのばらつき



出所：S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス LLC。データは、2016年10月31日から2016年11月30日までの日次のトータル・リターンに基づいています。過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。図表は説明目的のために提示されています。

最近においても市場の牽引役が変化しており、市場ではこうした変化が常に起こり得るものであると言えます。しかし、様々な指数に基づく投資戦略を活用することにより、市場参加者は異なる市場環境においてリスクを管理し、軽減することが可能となります。

このブログの記事は意見であり、助言ではありません。免責条項をお読み下さい。

<sup>3</sup> Preston, Hamish 著「[U.S. Equities and Sectors in Election Years](#)」、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス、2024年7月

## S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス免責事項

© S&P グローバルの一部門である S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス LLC 2025 年。不許複製。Standard & Poor's、S&P、は、S & P グローバルの一部門であるスタンダード・アンド・プアーズ・ファイナンシャル・サービシーズ LLC（以下「S&P」）の登録商標です。「ダウ・ジョーンズ」は、ダウ・ジョーンズ・トレードマーク・ホールディングズ LLC（以下「ダウ・ジョーンズ」）の登録商標です。商標は、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス LLC にライセンス供与されています。本資料の全体または一部の再配布、複製、そして（または）複写を書面による承諾なしに行うことを禁じます。本資料は、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス LLC、ダウ・ジョーンズ、S&P 或いはそれぞれの関連会社（これらを合わせて「S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス」という）が必要なライセンスを持たない地域におけるサービスの提供を行うものではありません。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス LLC が提供する全ての情報は、個人とは無関係であり、いかなる個人、事業体または集団のニーズに合わせて調整したものでもありません。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスは、その指数を第三者にライセンス供与することに関連した報酬を受けています。指数の過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。

指数に直接投資することはできません。指数が表すアセット・クラスへのエクスポージャーは、指数に基づく投資可能商品を通して得られます。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスは、第三者が提供し、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスの指数のリターンに基づく投資リターンを提供することを目指す投資ファンド、或いはその他のビークルを提供、推奨、販売、宣伝、或いは運用することはありません。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスは、指数に基づく投資商品が指数のパフォーマンスに正確に連動し、プラスの投資リターンを上げることについて保証しません。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス LLC は投資顧問会社ではなく、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスは、そうした投資ファンド或いはその他の投資ビークルに投資する適否に関して表明することはありません。そうした投資ファンド或いはその他の投資ビークルへの投資決定は、本資料で言及されたいかなる部分も信頼して実行されるべきではありません。そうしたファンド或いはその他のビークルに投資しようとする投資家に対して、投資ファンド或いはその他のビークルの発行体またはその代理人が作成する目論見書または類似文書に記載されているように、そうしたファンドへの投資に伴うリスクを注意深く検討した上で投資することを助言します。指数への証券の組入は、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスによるその証券の買い、売り、または保有の推奨ではなく、また投資助言でもありません。S&P の米国のベンチマーク指数及びダウ・ジョーンズの米国のベンチマーク指数の終値は、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスが、指数構成銘柄の各主要取引所が設定する終値に基づいて計算します。終値は S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスがサードパーティ・ベンダーの 1 社から受け取り、別のベンダーから届く価格と比較することにより検証されます。各ベンダーは終値を主要取引所から受け取ります。日中の実時間価格は、2 次検証を経ずに同様に計算されます。

これらの資料は、信頼できると考えられる情報源から一般に公衆が入手できる情報に基づき、情報提供のみを目的として作成されたものです。本資料に記載されるいかなる内容（指数データ、格付、クレジット関連の分析とデータ、モデル、ソフトウェア、或いはその他のアプリケーションまたはそれからの出力）も他のいかなる部分（以下「内容」という）も、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスによる事前の書面による承認なくして、いかなる形式といかなる手段によっても、改変、リバースエンジニアリング、再製作または配布、或いはデータベースまたは検索システムへの保存を行うことはできません。内容を、不法な或いは未認可の目的に使用してはいけません。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス及びいかなるサードパーティ・データ・プロバイダー及びライセンサー（合わせて「S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス当事者」という）も、内容の正確性、完全性、適時性或いは利用可能性を保証しません。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス当事者は、いかなる過誤、遺漏についても、原因の如何を問わず、内容を用いて得られた結果について責任を負いません。内容は、「現状」ベースで提供されています。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス当事者は、特定の目的または利用に対する販売可能性または適合性についてのいかなる保証も、バグやソフトウェアのエラーまたは欠陥がないこと、内容の機能が中断されないこと、或いは内容が何らかのソフトウェアまたはハードウェア構成により動作することの保証も、以上を含みそれに限定されない、あらゆる明示的または暗示的保証も拒否します。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス当事者は、いかなる場合も、いかなる当事者に対しても、内容の使用に関連して発生する、いかなる直接的、間接的、偶発的、典型的、補償的、懲罰的、特殊な或いは結果的な損害、費用、経費、法的費用、或いは損失に対しても（逸失収入または逸失利益、及び機会費用を含みそれに限定されず）、たとえ損害の可能性について事前に通告を受けていようと、責任を負いません。

S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスは、各事業部の活動の独立性と客観性を維持するために、それぞれの活動を他から隔離しています。その結果、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスの一部の事業部は、他の事業部では入手できない情報を保有する可能性があります。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスは、各分析プロセスの中で受け取った非公開情報の機密を守る方針及び手順を確立しています。

さらに、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスは、広範なサービスを、証券の発行体、投資顧問会社、証券会社、投資銀行、その他の金融機関及び金融仲業者など多くの組織に提供しています。したがって、これらの組織から報酬その他の経済的便益を受ける可能性があります。これらの組織には、証券やサービスを推奨し、格付け評価し、モデルポートフォリオに組入れ、評価するか別の対応を行う組織が含まれます。

最新のブログ 「**Indexology**」 (英語) をご覧になりたい方は、こちらのサイト

[www.indexologyblog.com](http://www.indexologyblog.com) よりご登録いただくと、更新の都度メッセージが届きます。